

地域生活ケア論（緩和ケア）

[講義] 1年・2年 後期 選択 15時間 1単位

《担当者名》石垣 靖子（非） [ishigaki@ab.auone-net.jp]

【概要】

地域包括ケア時代と言われて久しいが、いま、がんを始めとする生活習慣病、加齢に伴う心身の障害、精神障害者を含めた障害者や難病患者が受療者の8割といわれている。そのような中で、ますます期待が大きくなる看護の役割と、医療・福祉の基盤となる緩和ケアについて理解を深める。特に、患者・家族のQOLの維持・向上を目指したケアについて具体的に考えることができる。同時に、超高齢社会のなかで直面する倫理的諸問題を理解し、患者・家族のアドボケートとしての看護・福祉の役割について行動に結びつけることができることを目指す。

【学修目標】

1. 「地域」がキーワードの時代：看護・福祉職がそのキーマンであることを理解し自己の役割について考えられる。
2. 医療・ケアの方針決定において、患者・家族の意思決定を支える看護：福祉職の役割について理解する。
3. 終末期を迎えた人に、その人の人生の幸せなしめくりが出来るようなケアのあり方について、多職種と協働する具体的な方が考えられる。
4. 緩和ケアの対象の拡大と臨床倫理の重要性について理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	1. 地域包括ケア時代の看護	<ul style="list-style-type: none">・ 社会保障制度国民会議報告書の概要を理解する・ 地域包括ケアシステムの構成要素と看護の役割・ 病院医療から地域ケアへの転換・ 地域のネットワークの中で患者・家族を護る	石垣
3) 4	2. 緩和ケアの対象の拡大	<ul style="list-style-type: none">・ 緩和ケアとその本質・ 緩和ケアの対象の拡大について・ 緩和ケアとトータルペイン：特にスピリチュアルケアについて・ 「自由度を拡げる」ことの意味とその重要性	石垣
5) 6	3. 緩和ケアと臨床倫理	<ul style="list-style-type: none">・ 医療の質と臨床倫理・ 「傍らに在る」というケアの意味・ 患者・家族の意思決定を支える・ 倫理的な組織文化の定着に向けて	石垣
7) 8	4. 超高齢社会と緩和ケア	<ul style="list-style-type: none">・ 医学・医療の進歩と高齢者のQOL・ 「終わりよければすべてよし」の定着に向けて・ 高齢者の人権と尊厳を護る・ アドボケートとしての看護・福祉職の役割・ 時代が変わっても変らぬ基本的ケアの価値	石垣

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

テーマ毎のプレゼンテーション（25%）とレポート（50%）、ディスカッション（25%）の内容から総合的に評価する。

【参考書】

随時提示する。

【学修の準備】

これまでの臨床経験から、あらためて「緩和ケア」についての自己の理解を整理する。

【学習方法】

テーマごとに、提示する課題のプレゼンテーションと講義により学習を深める。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

<看護学専攻>

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

<臨床福祉学専攻>

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。